

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安田倉庫加須市北大桑新倉庫	階数	地上5F
建設地	埼玉県加須市	構造	S造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年4月1日
敷地面積	21,430 m ²	作成者	
建築面積	11,407 m ²	確認日	2022年4月9日
延床面積	42,857 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

環境品質 G (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 92 (kg-CO₂/年・m²)
②建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
Q1 室内環境 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	Q2 サービス性能 重要度係数 I = 1.50。 球面免震すべり支承使用している。 階高: 3.9m以上。0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。 床荷重: 4500N/m ² 以上。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m = 0.79 BEI _m = 0.58	LR2 資源・マテリアル ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物に対して80%。 物件は燃焼設備を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)安田倉庫加須市北大桑新倉庫計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.30			2.6
1 音環境						3.2	0.15		-	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		-	
1.3 吸音		壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。				4.0	0.20		-	
2 温熱環境						1.7	0.35		-	1.7
2.1 室温制御						2.5	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38		-	
2 外皮性能						1.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20		-	
2.3 空調方式						1.0	0.30		-	
3 光・視環境						2.8	0.25		-	2.8
3.1 昼光利用						2.4	0.30		-	
1 昼光率						2.0	0.60		-	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-	
1 昼光制御						3.0	1.00		-	
3.3 照度						3.0	0.15		-	
3.4 照明制御						3.0	0.25		-	
4 空気質環境						3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。				4.0	1.00		-	
4.2 換気						3.6	0.30		-	
1 換気量		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。				3.0	0.33		-	
2 自然換気性能						5.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33		-	
4.3 運用管理						2.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御						1.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	3.7
1 機能性						3.5	0.40		-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						3.6	0.30		-	
1 広さ感・景観						1.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置。				5.0	0.33		-	
3 内装計画		評価する取組みが4ポイント。				5.0	0.33		-	
1.3 維持管理						4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		評価する取組みが9ポイント。				5.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						4.0	0.30		-	4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数 I = 1.50。				5.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		球面免震すべり支保使用している。				5.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						3.0	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		①節水型器具を採用している。②可能な限り配管の系統を区分し、災害時の使用不能部分の低減を図っている。③災害時、下水道が機能しないことを想定し、汚水(雑排水)の一時的貯留機能が確保できるピットを設けている。				4.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	

	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	
3	対応性・更新性			3.7	0.30		-	3.7
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	
	1	階高のゆとり	階高: 3.9m以上。	5.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ	0.1≤[壁長さ比率]<0.3。	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり		床荷重: 4500N/m ² 以上。	4.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)			-	0.40		-	2.8
	1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.8
LR1	エネルギー			-	0.40		-	4.4
	1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m = 0.79	5.0	0.20		-	5.0
	2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
	3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.58	5.0	0.50		-	5.0
	4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-	-		-	
	4.1	モニタリング		-	-		-	
	4.2	運用管理体制		-	-		-	
LR2	資源・マテリアル			-	0.30		-	3.5
	1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
	2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60		-	3.6
	2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床: タイルカーペット、複層ビニル床シート。	4.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽量鉄骨下地とOAフロアを使用している。	5.0	0.22		-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
	1	消火剤		-	-		-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50		-	
	3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境			-	0.30		-	3.3
	1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物に対して83%。	3.8	0.33		-	3.8
	2 地域環境への配慮			3.3	0.33		-	3.3
	2.1 大気汚染防止		物件は燃焼設備を使用していない。	5.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
	3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
	1	騒音		3.0	0.50		-	
	2	振動		3.0	0.50		-	
	3	悪臭		-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-		-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)安田倉庫加須市北大桑新	BEE	1.7	BEEランク	★★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア	緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	3.0	=	6.8
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	
				

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.8
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して80%。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
屋上緑化や地上緑化、植栽で敷地面積の約25%以上を確保している。			

: 入力欄